

こ じま わん えん がん

「見島湾沿岸地区」

国営事業による基盤整備の概要

干拓

締切
堤防

樋門
管理

国営
事業

地域の
農業

農林水産省 中国四国農政局
岡山南土地改良建設事業所

明治時代以降の干拓

明治時代になり廃藩置県によって家禄をなくした（奉還した）旧士族たちの授産事業として干拓が行われ始め、それを契機に大阪の豪商藤田伝三郎による児島湾地域の大規模な干拓が始まりました。

当初は、湾内約7,000haのうち約5,500haを8つの工区に分割し干拓を行う予定が進められ、途中、藤田農場の解体等による工事の中断があったものの、その後農林省（現在の農林水産省）が工事を引き継ぎ、昭和38年までに第四区と第八区を除く6つの工区が順次完了し、現在の姿となりました。

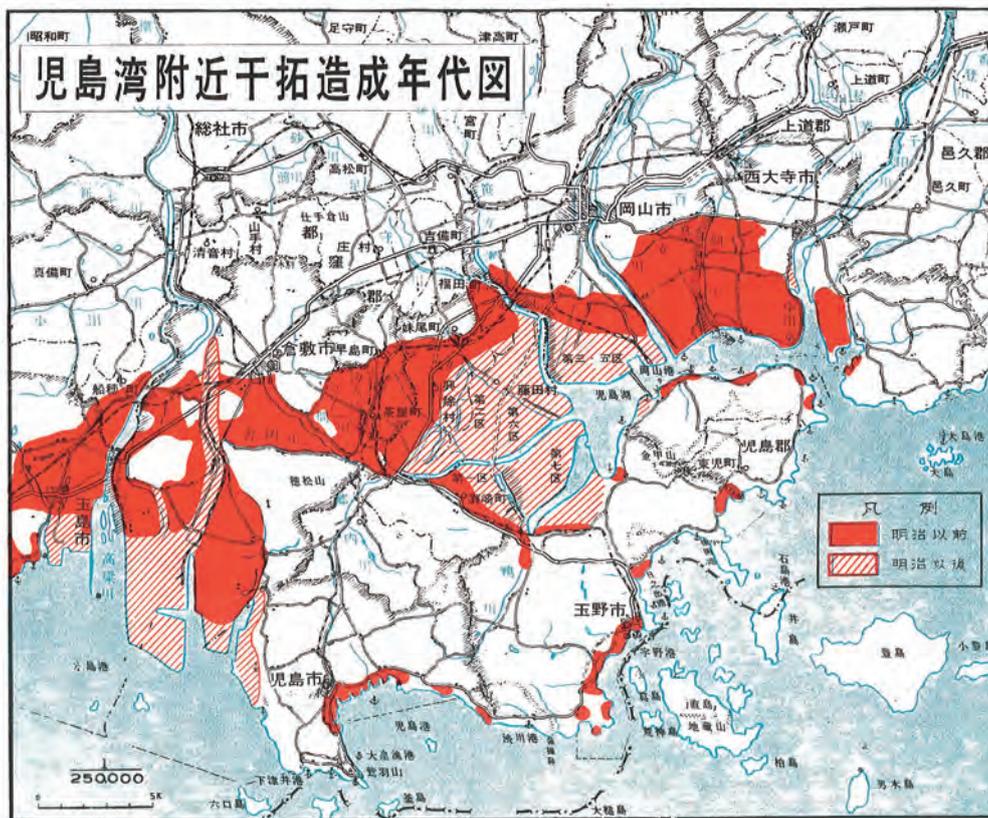


藤田伝三郎（1841-1912）

山口県萩市出身。高杉晋作の騎兵隊員でした。明治維新後、藤田組を組織し、数多くの事業を行いました。

岡山市藤田という地名は、児島湾干拓で偉業をなした藤田伝三郎の「藤田」が地名となったものです。

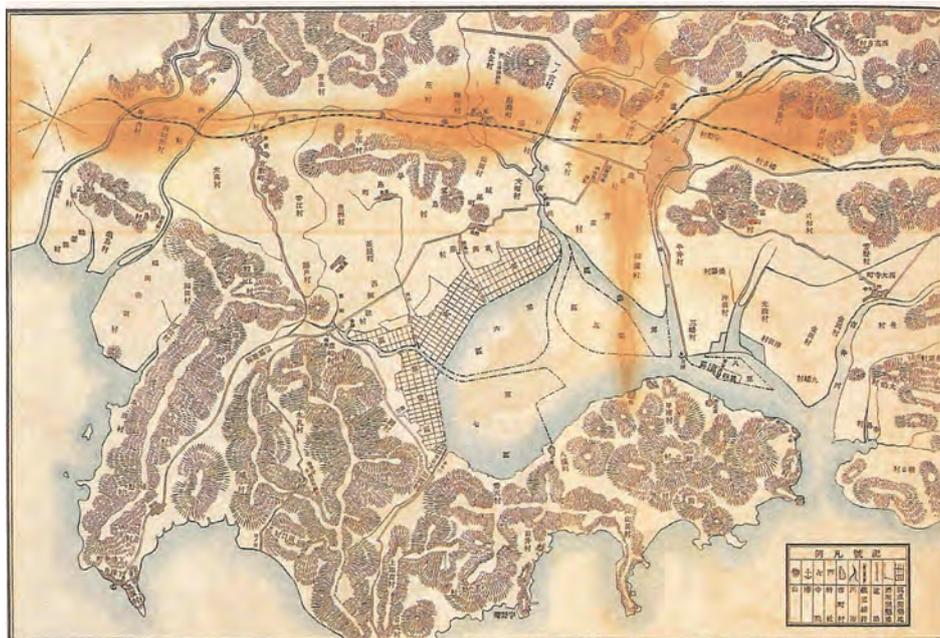
（山陽東部土地改良建設事務所：児島湖 過去から未来へ 岡山海岸保全事業のあゆみ）



（中国四国農政局：児島湾干拓建設事業・児島湾沿岸農業水利事業 概要書）

干拓と基盤整備のあゆみ

	児島湾干拓と基盤整備	社会の出来事	
明治	民営大干拓の時代 明治維新後、民間の干拓気運は高まり、「藤田干拓」は現代児島湾干拓の基礎となる。		
	1880(明治13)年	生本伝九郎、児島湾全域干拓構想を高崎知事が内務卿に具申。	
	1881(明治14)年	オランダ人土木技師ムルドルが児島湾実地調査。	農商務省が設置される
	1882(明治15)年	生本伝九郎、大阪の豪商藤田伝三郎に干拓事業への参加を要請。	
	1889(明治22)年	藤田組の干拓起業(ムルドル技師指導の計画)認可。	
	1899(明治32)年	児島湾干拓第一・二区の工事着手。	
	1900(明治33)年	第一区潮止完了。	
	1904(明治37)年	第二区潮止完了。	
	1905(明治38)年	第一区の干拓地完成。	
	1912(明治45)年	第二区干拓地完成。 藤田村誕生。藤田村に藤田小学校開校、大曲、錦に分教場を設置。	
大正	1913(大正2)年	藤田開墾第三、五、六、七区の起工許可。山根式穀類乾燥機発明。	
	1914(大正3)年	児島湾干拓第三、五、六区の工事着手。 第一区の耕地整理完了。	第一次世界大戦開戦
	1918(大正7)年		第一次世界大戦終戦
	1925(大正14)年		農商務省を農林省と商工省に分割
昭和	1933(昭和8)年	児島湾干拓第三・五区の本工事着手。	
	1935(昭和10)年	第三・五区の潮止完了。	
	1937(昭和12)年	第三・五区西部地区の分譲開始。	
	1939(昭和14)年	第六区本工事着手。	第二次世界大戦開戦
	1940(昭和15)年	第三・五区東部地区の区分竣工。	
	1941(昭和16)年	第六区の潮止完了。 県営小坂部川農業水利事業実施。(S16～S23)	真珠湾攻撃
	1943(昭和18)年		農林省が廃止され、農商省を設置
	1944(昭和19)年	第七区の工事を藤田組より、農地開発営団が引き継ぐ。	
	1945(昭和20)年		農商省が農林省に改称 第二次世界大戦終戦
	農林省干拓の時代 戦後、藤田組の干拓事業は農林省が引き継ぎ、大規模干拓が進む。		
1946(昭和21)年	農地改革で第六区は国家買収、農林省が引き継ぐ。	南海大地震	
1947(昭和22)年	第七区工事を農地開発営団より農林省が引き継ぐ。 農林省 児島湾干拓建設事業(S22～S38)		
1948(昭和23)年	第七区の潮止完了。県営小坂部川用水改良事業、国営に移管。 農林省 小坂部川農業水利事業(S23～S30)		
1950(昭和25)年	農林省 児島湾沿岸農業水利事業(S25～S37)		
1951(昭和26)年	第七区への入植始まる。	サンフランシスコ講和条約調印	
1953(昭和28)年		テレビ放送開始	
1954(昭和29)年	第六区干拓事業竣工。		
児島湖淡水化始まる			
1956(昭和31)年	児島湖締切完了。	日本が国連に加盟	
1958(昭和33)年		東京タワー完成、国立霞ヶ丘競技場完成	
1959(昭和34)年	締切堤防完工記念切手を発行。(S34年2月発行)	伊勢湾台風	
1960(昭和35)年		カラーテレビ放送開始	
1961(昭和36)年	締切堤防開通式。締切堤防有料通行開始。(S36年10月)		
1962(昭和37)年			
1963(昭和38)年	第七区完工。現在の地勢となる。	国立代々木競技場	
1964(昭和39)年		東京オリンピック開催	
1970(昭和45)年		万国博覧会(大阪万博)開催	
1971(昭和46)年		沖縄返還協定調印	
1972(昭和47)年		山陽新幹線(新大阪-岡山間)開通	
1974(昭和49)年	締切堤防無料通行開始(S49年10月)		
1975(昭和50)年	県営海岸保全施設整備事業(S50～S55)	山陽新幹線(岡山-博多間)開通	
1978(昭和53)年		農林省から農林水産省に改称	
1980(昭和55)年	直轄海岸保全事業(岡山地区)(S55～H13)		
1986(昭和61)年	農林水産省 児島湾周辺農業水利事業(S61～H15)		
1988(昭和63)年		瀬戸中央自動車道、瀬戸大橋開通(S63年4月)	
平成	1989(平成元年)		昭和天皇崩御
	1990(平成2)年	広域農道(千両街道)開通	
	1992(平成4)年	農林水産省 児島湖沿岸農地防災事業(H4～H13)	
	1995(平成7)年		
	2006(平成18)年		阪神・淡路大震災(H7年1月)
	2011(平成23)年		西瀬戸自動車道(しまなみ海道)全線開通(H18年12月)
	2012(平成24)年		東日本大震災(H23年3月)
	2016(平成28)年		東京スカイツリー完成
	2018(平成30)年		熊本地震(H28年4月) 西日本豪雨
令和	児島湾締切堤防の耐震化対策始まる 東日本大震災を契機とした、大規模地震発生時の対策が求められる。		
	2019(令和元年)	農林水産省 児島湾沿岸農地防災事業(R元～R12)	国立競技場完成
	2021(令和3)年		東京オリンピック開催(予定)



児島湾開墾計画図（明治時代）
（山陽東部土地改良建設事務所：岡山平野鳥瞰記）



干拓工事の様子
（田んぼになる海）

1 塩害との戦い



塩抜き鎌で溝を掘る様子

(岡山県立興陽高等学校：児島湾干拓および干拓農業発達史)

干拓地の田んぼはもともと海の底だったので、稲作の大敵となる塩分が含まれています。この塩分を流し出す溝を掘るために「塩抜き鎌」などを利用しました。

2 農業用水確保の取組

足踏水車を利用するなど用水を確保するために懸命な努力が続けられました。



足踏水車

(岡山県立興陽高等学校：児島湾干拓および干拓農業発達史)

3 生活用水確保の取組

屋根に降った雨水は「トイ」を通して「天水井戸」に溜めておきました。この貯水をろ過して飲用水に利用しました。生活用水の確保のために多大な労力が費やされました。



干拓地内の民家

(児島湾干拓事務所：児島湖干拓)



天水井戸

(藤田村編纂委員会：藤田村史)

締切堤防完成以前の干拓地の姿

1 高潮、洪水の甚大な災害の多発

昭和29年台風12号、15号における堤防決壊によって生じた藤田村では未曾有の大災害が発生しました。



堤防決壊により海水が侵入¹⁾



堤防決壊により海水が侵入した錦地区²⁾



倒壊家屋の状況³⁾

※写真は

- 1) 『藤田の生い立ち 藤田地区振興協議会』
- 2) 『藤田村史 藤田村編纂委員会』
- 3) 『藤田の生い立ち 藤田地区振興協議会』より引用

2 干ばつの多発

明治以降の主な干ばつ被害

時期	気象状況	被害（収穫量等）
明治9年（1876年）	55日間連続日照	興除村：収穫2割
明治16年（1883年）	75日間旱天続き	興除村：収穫皆無
明治19年（1886年）	55日間旱天続き	興除村：収穫2割
明治37年（1906年）	記録なし	藤田村大曲・都地区：収穫皆無
大正13年（1924年）	81日間旱天続き	興除村、藤田村：収穫半減
昭和14年（1939年）	85日間旱天続き	興除村、藤田村：収穫皆無

※記録は、『興除村史 興除村史編纂委員会』『児島郡誌 私立児島郡教育会』より

児島湾締切堤防の完成と児島湖の誕生

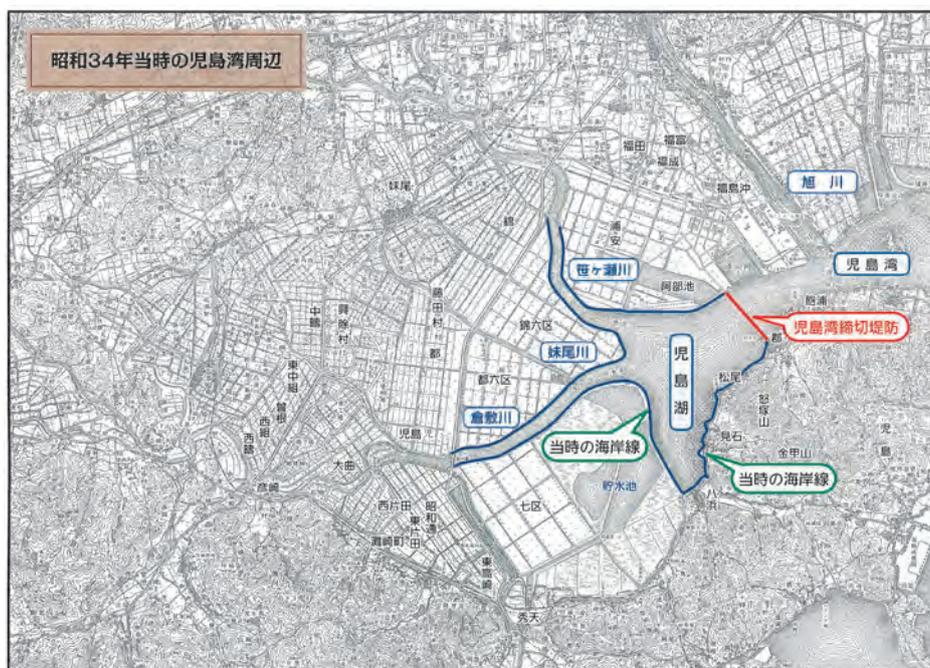
かつての干拓地では、営農に必要な水を上流の余り水や天水に頼るしかなく、さらに干拓が進むにつれて慢性的な水不足や塩害が深刻となりました。また、高潮による浸水被害も甚大でした。

これらの問題を解決するため児島湾を締切り、淡水化する事業として、締切堤防工事は着工されました。



当時の締切堤防

(農林省児島湾沿岸農業水利事業所：
児島湾締切堤防)



昭和34年当時の 児島湖周辺

(岡山県備前県民局：児島湾干拓と
児島湾締切堤防 ～昔と今～)

このようにして誕生した締切堤防（児島湖）は、農業用水の確保等による農業の振興、高潮・洪水被害の解消、生活環境の向上等の極めて重要な役割を果たし、地域の発展に大いに貢献しています。

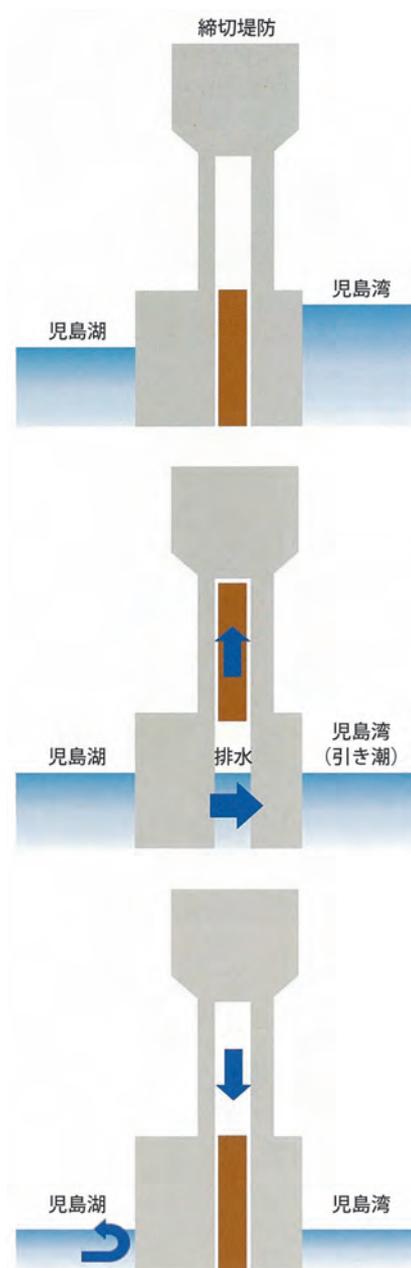
■ 洪水被害の防止

- 締切堤防の樋門を潮位に応じた操作を行うことで、水位を適正に管理しています。
- 干拓地内の排水を円滑にし、洪水による浸水被害を防止する大切な役割をします。
- 豪雨による干拓地の湛水被害を防止するため、台風襲来前等には事前に水位を低下させるなど排水対策を実施しています。

締切堤防の樋門操作

〔樋門操作の流れ〕

- 1 児島湖より児島湾の水位が高い時は、海水が入ってくるのを防ぐため、樋門を閉じています。
- 2 引き潮の時は、児島湾の水位が徐々に低下していき、児島湾の水位が児島湖より低くなったとき樋門を開けて、児島湖の水を児島湾へ出します。
- 3 干潮を過ぎると、児島湾の水位が、徐々に上昇していくため、児島湾の水位が児島湖の水位より高くなる前に樋門を閉めます。



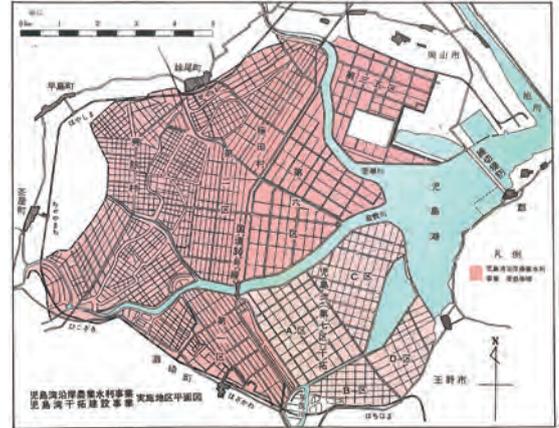
(岡山県備前県民局：児島湾干拓と児島湾締切堤防)

① 児島湾干拓及び締切堤防建設

事業名	児島湾干拓建設事業
関係市町	玉野市、児島郡灘崎町
総事業費	19億円
工期	昭和22年度～昭和38年度
主要工事	堤防：7,667m 排水樋門：径間2.7m×2門×2箇所 径間9.0m×1門×1箇所 用排水路：用水路24,997m、排水路31,675m 承水路4,099m、水路構造物1式 道路：47,864m、附帯橋梁54箇所 揚水機場：9箇所

(事業の概要)

第七区の干拓は昭和19年に農地開発営団により着工されましたが、昭和22年に農地開発営団が閉鎖されたことに伴い、農林省（現在の農林水産省）が事業を引き継ぎ国営事業として実施、昭和38年に完成しました。



実施地区平面図

(中国四国農政局：児島湾干拓建設事業
児島湾沿岸農業水利事業概要書)



干拓工事のようす

(岡山県：児島湾締切堤防の概要)

事業名	児島湾沿岸農業水利事業
関係市町	岡山市、倉敷市、玉野市、児島郡灘崎町、児島郡興除村、児島郡藤田村
総事業費	22億円
工期	昭和25年度～昭和36年度
主要工事	締切堤防：1,558m 樋門：径間12m×6門×2箇所 閘門：径間8m×長29m×1箇所

(事業の概要)

児島湾を堤防で締め切り、淡水化するため、農林省（現在の農林水産省）が昭和25年に工事に着手し、昭和34年に完成しました。



渡初め式（締切堤防と甲号樋門）

(岡山県：児島湾締切堤防の概要)



樋門工（甲号樋門）



コンクリート工



潮止工

※写真は『児島湖発達史 児島湖発達史編纂委員会』より引用

② 児島湾締切堤防の整備

事業名	岡山海岸保全事業
関係市町	岡山市、玉野市、倉敷市、児島郡灘崎町
総事業費	200億円
工期	昭和55年度～平成13年度
主要工事	樋門開門工 樋 門：径間24m×6門×1箇所 開 門：径間8m×長29m×2門×1箇所 管 理 橋：純長172.3m×幅員9.9m 管 理 棟：RC造 1棟 堤体補強工 抑捨石工：1式 消波工：1式 根固工：1式

(事業の概要)

締切堤防は、軟弱な海成粘土層上に築造されているため、波浪による盛土の吸出、樋門開門の老朽化に対応するため、岡山海岸保全事業で改修を実施しました。



基礎工施工状況



橋桁架設状況

③用排水路の整備

事業名	児島湾周辺農業水利事業
関係市町	岡山市、玉野市、児島郡灘崎町
総事業費	330億円
工事期間	昭和61年度～平成15年度
主要工事	用水機場：1箇所 用排水機場：3箇所 排水機場：3箇所 用水路：23,600m 排水路：5,500m その他施設：1式

(事業の概要)

干拓地が造成された年代はまちまちで、さらに低平地であることから、それぞれの干拓規模に応じた用排水ポンプや樋門が設置されていました。これらの施設は、全体に機能の重複するものが多い上に老朽化が進み、年々の維持管理の労力が増大していました。用排水路整備事業では、地域農業経営の発展を目的に用排水施設を再編成・再整備しました。



七区排水機場



丙川幹線排水路

(山陽東部土地改良建設事務所：
児島湾周辺農業水利事業 完工記念誌)



藤田幹線用水路 (施工状況)

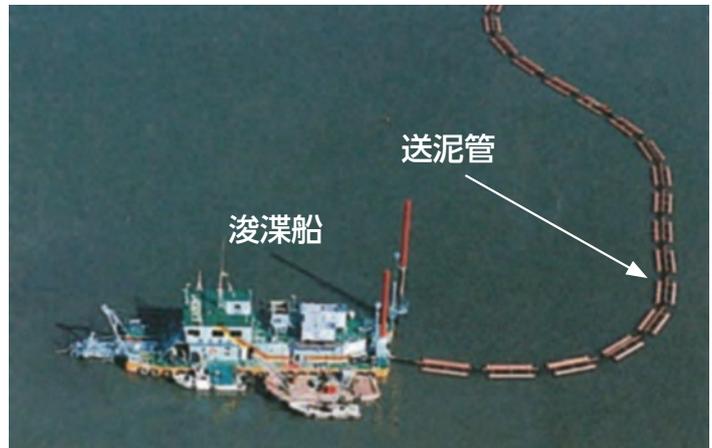
(山陽東部土地改良建設事務所：国営児島湾
周辺農業水利事業 整備施設の紹介)

④農業用水の水質改善（浚渫）

項目	児島湖沿岸農地防災事業
関係市町	岡山市、倉敷市、玉野市、児島郡灘崎町
総事業費	328億円
工事期間	平成4年度～平成18年度
主要工事	底泥浚渫工：1,703千m ³ ミオ筋浚渫・埋戻工：165千m ³ 脱水処理工：1,868千m ³ 覆砂工（深部）：92千m ³ 土捨場築造工等：1式

（事業の概要）

児島湖周辺の農業用水は、児島湖や足守川、鴨川等を水源とし、揚水機、井堰により取水されていますが、児島湖流域における都市化等により、児島湖の水質が悪化しています。農業用水源である児島湖の水質を改善するために、湖底に滞積した泥の撤去（浚渫）等を行いました。



浚渫船と送泥管

浚渫船で底泥を吸い込み、送泥管で脱水処理施設へ送ります。



脱水処理設備

（中国四国農政局：国営土地改良事業事後評価 国営総合農地防災事業「児島湖沿岸地区」）



圧縮後の底泥

（児島湖沿岸農地防災事業所：農地防災事業計画の概要）

浚渫船から送られてきた底泥に凝集材を混ぜて、機械で圧縮して脱水します。

締切堤防完成後（全国に先駆けた先進的な営農の展開）

児島湾干拓地は岡山県内の農業機械利用の中心として興隆しました。石油発動機とバーチカルポンプは、児島湾干拓地に不可欠であるとして、農業の機械化は一気に進展しました。

○児島湖による農業用水の確保の後は、優れたほ場条件の下、最先端の大型機械が導入されました



全国初のコンバイン現地研究会
(岡山県立興陽高等学校所蔵 1964年頃)

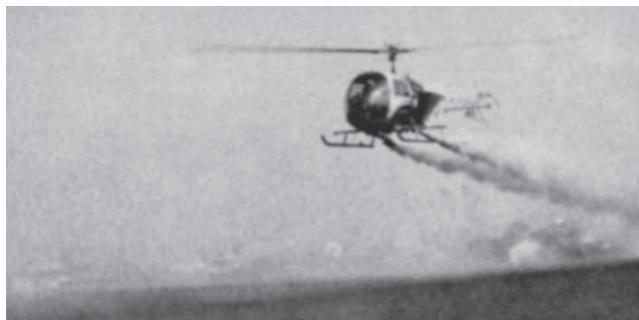


バウツウコンバイン
(1964年頃)

○機械化にとどまらず、全国に先駆けた乾田直播、航空防除等、最先端の営農技術が展開されました



乾田直播（多条シード）
(1963年頃)



航空防除
(1962年頃)

新たな農業への取組み

干拓地内では省力・高品質を実現するための取組みが進められています。



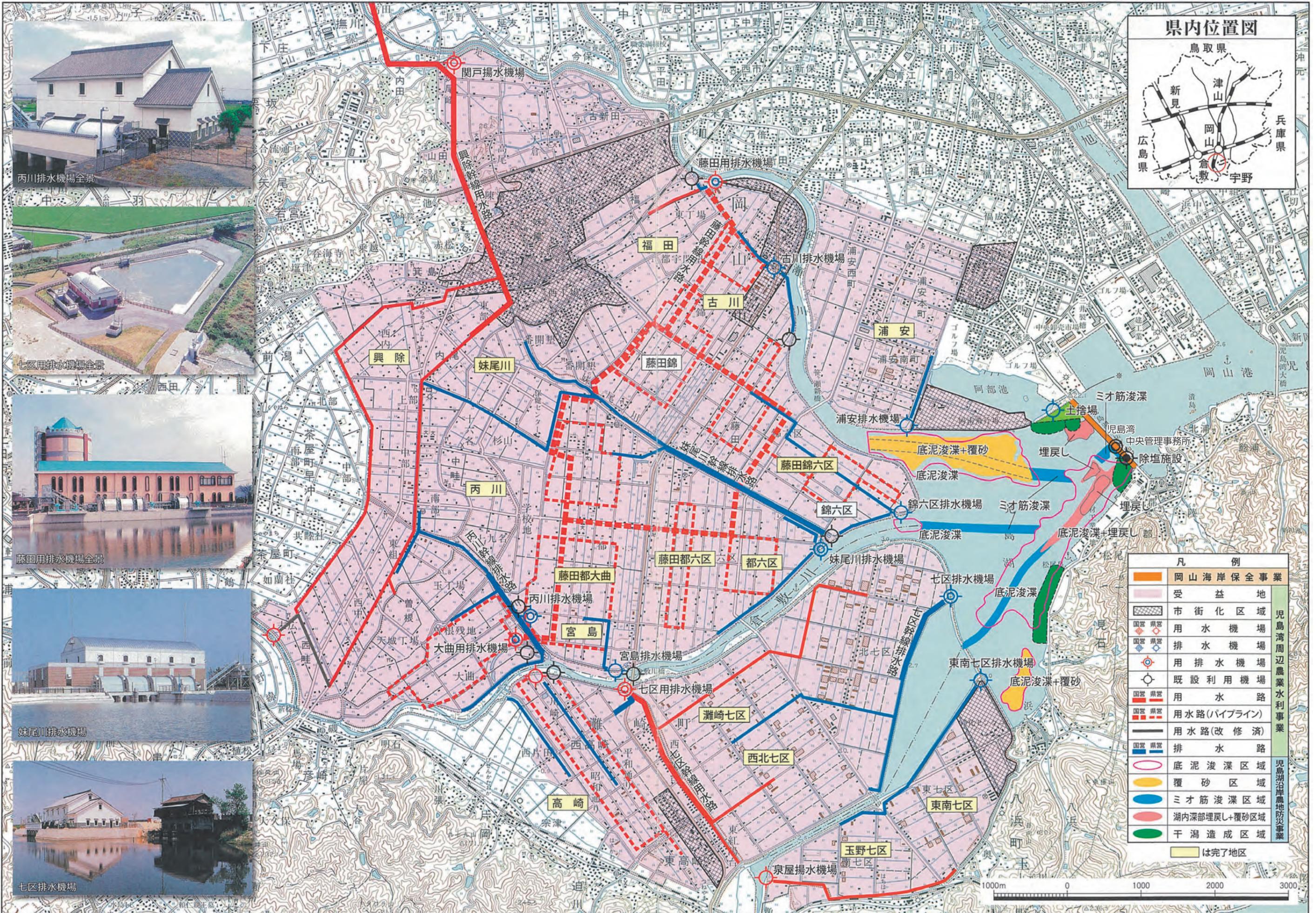
ドローンによる薬剤散布の様子

【ドローン導入による作業の効率化】

圃場での薬剤等の散布作業にドローンを導入し、二条大麦の赤カビ病防除を行っています。これにより、作業負担が軽減され、作業の効率化が図られています。

(有) 国定農産圃場にて

児島湾周辺事業計画一般平面図



凡 例	
	岡山海岸保全事業
	受益地
	市街化区域
	用水機場
	排水機場
	用排水機場
	既設利用機場
	用水路
	用水路(パイプライン)
	用水路(改修済)
	排水路
	底泥浚渫区域
	覆砂区域
	ミオ筋浚渫区域
	湖内深部埋戻し+覆砂区域
	干潟造成区域
	は完了地区

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を使用したものである。(承認番号 平22 中使 第11号)」

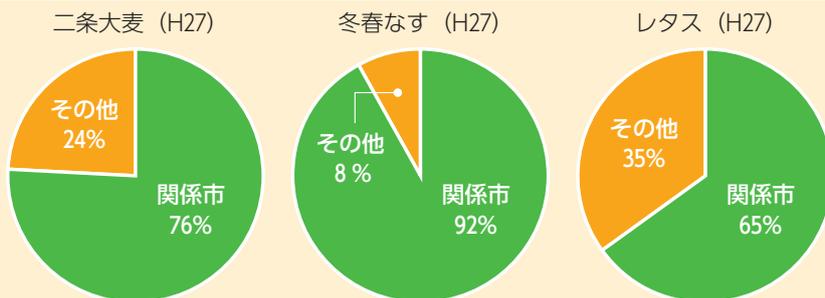
■ 高収益農業の展開（農産物のブランド化）

- 干拓地特有のミネラルに富んだ土（重粘土）を利用した高収益作物の生産が盛んです。
- 「備南の千両ナス」は、岡山ブランドとして京浜、京阪の市場に出荷し、京都方面では漬物用として重宝され、全国で高評価を受けています。

本地区は山陽地方を代表する大規模優良農業地帯として大きな役割を果たしています。

岡山県に占める関係市 (岡山市・玉野市・倉敷市) の作付面積割合

出典：岡山農林水産統計年報



備南千両ナス（岡山ブランド農作物）

(山陽東部土地改良建設事務所：児島湖周辺農業水利事業 完工記念誌)



(JA 岡山 HP)



藤田レタス（JA岡山藤田レタス部会地域商標登録）